

遊漁船・漁船・交通事故・死者数の比較 20年～24年

5年間比較	死者数		延べ人数	確率	何人に一人	遊漁船基準	
遊漁船	8	A	6,500,000	0.0001%	812,500	1	倍
漁船(漁師)	117	B	680,000	0.0172%	5,812	172	倍
交通死亡事故	13,426	C	623,615,000	0.0022%	46,448	22	倍

死者数は行方不明含む

26.02.07制作

漁師172倍!!!! 交通事故22倍!!!!

顧客5の計算でも漁師7倍

遊漁船船長一人と計算しても漁師1.4倍

遊漁船死者数の8名のケースでもイカダと無線で被害の軽減に繋がった事故ではない。

述べ人数の計算

Aの計算、1事業者顧客100名と想定。その5年間13000業者×100名×5年別の遊漁船と共通や大型遊漁船の乗客を概算して1事業者約100名と想定 釣り人口510万人に対して25.5%なので決して大げさなものではない。 釣り人4人に1人が年に1回以上遊漁船に乗る計算。 他の遊漁船と被らない顧客の概算です。仮に50名で計算しても 漁師86倍・交通事故11倍。
Bの計算、20年データで136000人×5年。その他の年はデータ無く不明。漁師 確率172倍
Cの計算、それぞれの年の人口の合計。交通事故 確率22倍

参考資料、水産庁・海上保安庁・警視庁・総務省統計局から

20年～24年船舶事故データ

海上保安庁25年7月17日付 速報値 (令和6年における海難発生状況資料より抜粋)

	隻数	割合	遊漁船基準	死者数*	割合	遊漁船基準
遊漁船	413	4.4%	100%	8	2.4%	100%
旅客船	191	2.0%	46%	26	7.8%	325%
漁船	2254	23.9%	546%	117	35.1%	1463%
プレッシャー	4697	49.9%	1137%	76	22.8%	950%
その他	635	6.7%	154%	15	4.5%	188%
貨物船	968	10.3%	234%	81	24.3%	1013%
タンカー	260	2.8%	63%	10	3.0%	125%
合計	9418	100.0%		333	100.0%	

*死者数に行方不明者数も含む。

26・02・05制作

このデータから遊漁船の死者数は最少です。

旅客船の死者数は知床事故の死者数です。あの事故が無かったら0です。

どうして旅客船と遊漁船だけに規制強化? 安全装備義務化?

なぜ死者数 **14.6倍の漁船・9.5倍のプレジャー義務化除外?**

このデータより国は食料自給を支える漁師の命を軽んじていると判断出来ます。